

資料④ 令和7年度版『伝え合う言葉 中学国語』

検討の観点と特色

目次

1 教育基本法・学習指導要領への対応 …… 2

- (1) 教育基本法
- (2) 学習指導要領

2 教科書の内容と構成 …… 2

- (1) 全体の構成や配列、展開
 - ①内容の程度と分量
 - ②全体の構成・配列
- (2) 教材選定や教材化の観点
 - ①教材選定
 - ②他教科等との関連
 - ③学習の系統性の重視
 - ④学習過程の明確化
 - ⑤言語活動の充実
 - ⑥小中接続、高校接続の工夫

3 各領域などの内容・配列 …… 4

- (1) 知識及び技能
 - ①言葉の特徴や使い方（言葉の働き、文や文章、言葉遣い、音読、朗読など）
 - ②漢字
 - ③語彙・情報の扱い方
 - ④伝統的な言語文化
 - ⑤読書
 - ⑥学習用語と学習事項の系統化
- (2) 思考力、判断力、表現力等
 - ①話すこと・聞くこと
 - ②書くこと
 - ③読むこと（説明的文章・文学的文章）

4 デジタル機器を使用した学習への対応 …… 6

- ①「まなびリンク」（二次元コード）との連動
- ②学習者用端末の活用
- ③デジタル教科書・教材
- ④デジタルへの対応

5 特別支援教育や色覚特性などへの対応 …… 7

- ①特別支援教育への対応
- ②カラーユニバーサルデザイン

6 その他、今日的教育課題への対応 …… 7

- ①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実のための工夫
- ②主体的に学習に取り組む態度の育成
- ③カリキュラム・マネジメントへの対応
- ④持続可能な社会の創り手を育む教育（ESD教育・SDGs）
- ⑤キャリア教育への対応
- ⑥環境に関する教育
- ⑦科学技術の発展への対応
- ⑧情報化社会への対応
- ⑨生命の尊重への対応
- ⑩安心・安全な社会への対応
- ⑪平和共生・国際理解への対応
- ⑫評価への手がかかり
- ⑬地域性への対応
- ⑭多様性への対応（人権上の配慮、配慮を要する生徒への対応など）
- ⑮学力の向上への対応
- ⑯日本語指導に配慮を要する生徒への対応
- ⑰教員の「働き方改革」への対応

7 文字・表記・図版・資料 …… 8

- ①文字・活字・書体
- ②ユニバーサルデザインフォント
- ③表記・表現
- ④挿絵・図版・写真

8 造本・印刷・デザイン …… 8

- ①造本・印刷
- ②紙面デザイン

1 教育基本法・学習指導要領への対応

(1) 教育基本法

○教育基本法の目的や目標に対応しているか。

①共に生きる視点を持ち、自ら学び・自ら生きる力を育成	○現代の諸課題に言葉の教育という側面から応え、新たな時代を切り拓いていくことのできる生徒を育てることを主眼とし、国語科として、生徒が言語活動をとおして、人（他者）と交わりながら共に生きていく視点を持ち、 自ら学び、自ら生きる力を培う ことを目指している。
②「伝え合う力」の育成と学び合い	○ 社会生活の中で 、「共に生きていく」視点をもつこと、 互いを尊重し合える心をもつ こと、 自らの未来に展望をもち希望をもつ こと、これらを国語学習の中で育めるように教材化を図っている。 ○ 社会での合意形成を可能にする「対話力」 の育成を目標に 言語コミュニケーションを重視し、多様な情報に関する知識と課題 とともに、さまざまなジャンルや多様なテーマにふれ、交流することで、互いの気持ちや考えを深め合うように意図している。 ○学習過程において、 互いの立場を尊重し ながら、 課題の解決 に向けて自分の意見を交流する場を設け、「伝え合う力」の育成を図っている。
③学ぶ意欲と豊かな心を育てる <small>学び</small>	○各領域の教材で、一人一人の生徒が課題をもち、「 問う 」力を身につけ、自ら学ぶ意欲をもつように教材を作成している。また、 想像力や豊かな心を育む 教材を選定している。 ○「学びナビ」や学習活動の具体的な提示により、どのように学ぶか、「 学び方 」を 明確に示し 、生徒が学習の見通しや興味をもてるように意図している。
④伝統や情緒を尊重する態度を育てる	○ 長く受け継がれている古典や近代文学 などを取り上げ、日本の古典文学を代表する作品を取り上げるとともに、視覚資料を充実し、コラム教材を設定するなど、多様な教材化をはかることにより、郷土を愛し、我が国の言語文化に親しみ、継承する態度を育てることができるよう教材化を工夫している。

(2) 学習指導要領

○教科の目標達成が図られているか。

①国語で理解し表現する資質・能力の育成	○ 言葉による見方・考え方をはたらかせ 、国語で 正確に理解し適切に表現する資質・能力を高める ために、各領域等での教材を工夫している。 ○ 各単元や教材の目標、内容を明確に示し 、3学年で 系統的・段階的に学習が進められる よう構成している。 ○国語による 理解力や表現力を育成し 、伝え合う力、 豊かな言語感覚を養う ために、 系統的な学習 を意図して教材の目標やねらいを明確にし、 言葉による見方・考え方をはたらかせて 、生徒が 自ら学び、自ら考える力 を身につけられるように配慮している。
②生きて働く「知識・技能」の習得	○ 言葉の機能やはたらし を知り、 言葉そのものに興味・関心 をもちながら、 言葉をとおしてものごとを的確に理解し、論理的に考え、表現する能力 を高められるよう配慮している。 ○他者との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら 言葉を通じて伝え合い、理解し合う能力 を育成できるよう配慮している。 ○長く受け継がれている 我が国の言語文化にふれ、親しむ ことにより、 感性や情緒を高め、これを尊重して次の世代につないでいく態度 を育成できるよう図っている。
③未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、多様な話題・内容を取り上げた学習の中で 自ら「問い」をもち、課題を発見し、考え、表現し、伝え合う能力 を育成できるよう工夫している。 ○他者との関わりの中で、言葉をとおして、 互いの立場や考えを理解し、尊重し、伝え合う「対話力」を高め、考えを深め合う ことで、多面的・多角的な考え方が育成できるよう配慮している。 ○国際的な視野をもち、国語で学んだ知識・技能を生かして、 多様な情報を理解し、活用する能力 を高め、 社会のさまざまな課題に対して、主体的に関わり、考え、解決する能力 を養えるよう工夫している。
④よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）	○新しい時代の社会を担う一員として、生活や社会におけるさまざまな課題に対して、それを発見し、他者との 協働的な活動の中で、コミュニケーション力を高め、互いの立場や考えを尊重し、よりよい解決を目指す態度と能力 を育成できるよう、配慮している。 ○古典から現代まで、多様な言語作品にふれることをとおして、 我が国の言語文化はもとより、他の地域などの文化についても興味・関心 をもち、 享受することを楽しみ、次の世代につないでいく意欲や態度 を育成できるよう配慮している。 ○ 国語科で学んだ知識・技能を、他教科の学習や日常生活、社会生活の中で活用 できるよう工夫している。

2 教科書の内容と構成

(1) 全体の構成や配列、展開

①内容の程度と分量	○26単元（第1学年9単元 第2学年9単元 第3学年8単元） ○本教材 207教材（第1学年72教材 第2学年67教材 第3学年68教材） ○付録教材 36教材（第1学年14教材 第2学年11教材 第3学年11教材）
●単元数 ●教材数	○話すこと・聞くこと 15教材 ○書くこと 16教材 ○読むこと 54教材
●領域別教材数	○物語・小説・随筆（近代文学含む。古典除く） 17教材（＋付録7教材） ○詩・短歌・俳句（巻頭詩含む） 12教材（＋付録2教材） ○説明的文章（新聞記事含む） 15教材（＋付録1教材）
●文種別教材数	○言語・文法に関する教材 18教材 ○漢字に関する教材 29教材
●言葉の特徴や使い方に関する教材数 ●情報の扱い方に関する教材数 ●「我が国の言語文化」に関する教材数	○35教材（＋付録3教材） ○古典（漢文・和歌・川柳含む。近代文学除く） 21教材（＋付録9教材）

- 紹介図書数
- 内容の展開など

②全体の構成・配列

○教科書 263冊＋まなびリンク 71冊＝計 334冊
○各学年の配当時間の合計は、「**話すこと・聞くこと**」「**書くこと**」の配当時間を確保し、総時数では、**書写の時間を引いた残りの時間内に収まる**ように設定している。
○各領域の教材は、以下のように**生徒の言語環境や発達段階を考慮**している。
*話すこと・聞くこと、書くこと……生活体験、職業体験、受験や就職など、**生徒の日常生活や言語生活に応じた内容**で、話題や課題を設定している。
*読むこと……文学的文章では、1年生は**随筆や短い作品**から取り上げ、学習が進むに従い、**翻訳や長文の小説へと文種を展開**している。説明文では、**構成の明確な説明**から始め、徐々に**評論、論説へと展開**している。
*読むこと教材の「学びナビ」や学習の手引き「みちしるべ」や、話すこと・聞くこと、書くこと教材の「学びナビ」や活動内容も、4月から3月へ、1年生から3年生へと、**段階的に重点を積み上げていく**ようにし、「**習得**」と「**活用**」を、**螺旋的に難易度を上げながら反復**しておさえていくことができるようにしている。
○指導内容を**螺旋的・反復的に繰り返して**学力向上を図った指導ができるように、**学年間と学年を通しての系統的な単元構成**を意図している。
○教科書全体を、必須・必修教材を中心に単元化した本教材（第1、2学年全9単元、第3学年全8単元）と、学習時期を柔軟に扱ったり、補充・参考として扱ったりする小教材、資料などに分け、**学習内容に応じて効率的、効果的に年間の学習計画が組み立てられる**よう構成している。
○1年間を通じて**各領域等の教材を偏りなく配列**し、定期考査など**学習評価に際してもバランスが取れる**ようにしている。また、3学年で体系的に展開できるよう、**前後の学年との単元構成を系統化**している。

(2) 教材選定や教材化の観点

①教材選定	○未来の社会の担い手となる中学生が、現在、あるいは将来に向き合う、 現代的な課題を積極的に取り上げて いる。 ○以下のポイントを考慮した教材選定を行っている。 国語科の「不易」と「流行」／豊かな人間性・社会性／多様性への理解／生命の尊重／科学的・論理的な考察／環境教育・自然保護／国際協働や平和／豊かな情操・心の発達／安全・安心・防災／郷土や地域を愛する心／伝統的な言語文化／日本の伝承／勤労の意義とものづくり／食育／先達の言葉や生き方にふれる／情報活用／メディア・リテラシーへの対応／コミュニケーション力／実用的な文章／読書関連
②他教科等との関連	○ SDGsも視野に入れた幅広い分野からの話題 を取り上げ、他教科等の内容との連携について考慮している。 ○表現に関する教材を中心に、他教科の学習に合わせて柔軟に取り組むことにより、 他教科の学習を下支え することができるよう考慮されている。他教科の学習という 実際の言語活動に活用されることで、実の場で生きる言葉の力を育む ことにも通じます。また、教材の末尾に「学びを生かす」の欄を設け、他教科や日常生活、社会生活などへの関連を示している。 社会：歴史や公民に関する教材を掲載している。裁判員制度に関する教材を掲載している。 理科：自然や環境、最新の科学について話題にした教材を多く取り上げている。 道徳：教育基本法や学校教育法への対応を踏まえ、各領域・事項の教材で、生命・平和・友情・人権・福祉・環境・公共・心の発達などに関わる話題・題材を取り上げている。
③学習の系統性の重視	○学習内容の 明確化、焦点化を図り、学習の見通しをもたせるため、教材ごとに重点的に学ぶ事項を設定し、「学びナビ」「ヒント」「目標」などで示す ことで、生徒が自らの学習を認識し、次の学習へと向かえるよう工夫している。
④学習過程の明確化	○「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、学習の過程が明確となるよう、 学習の進め方と重点を教材の冒頭や学習活動の手順「学習活動の流れ」に明示 し、目標で設定した重点的な指導事項と活動との対応も示している。 ○「読むこと」教材では、学習の手引き「みちしるべ」において、主として「構造と内容の把握」を扱う「内容を捉えよう」、「精査・解釈」を扱う「読み深めよう」、「考えの形成・共有」と言語活動を扱う「自分の考えを伝え合おう」の 3段階の学習のステップ を提示し、目標で設定した 重点的な指導事項との対応 も示している。
⑤言語活動の充実	○「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、 教材名や目標でも言語活動を明示 し、さらに、「目標」「学習活動の流れ」で、 学習の見通しと重点、言語活動を示している 。 ○「読むこと」教材の学習の手引き「みちしるべ」での「 自分の考えを伝え合おう 」で示される 学習課題は、授業での言語活動として取り組むことを盛り込んでいる 。 ○小学校で習得した事柄を中学校でも確認し、高等学校への学習へもつなげられるように、 着実に習得するための丁寧な説明や、振り返りのステップ を明確に位置づけている。
⑥小中接続、高校接続の工夫	○1年冒頭単元では、小学校の学習を踏まえ、 1年P16「言葉と出会う」、P17「聞くということ」、中学校の国語学習を展望する教材 を設け、 小学校からの学習を円滑に展開 できるよう配慮している。 ○各学年巻末付録「言葉の自習室」に、「理解に役立つ言葉」、「表現に役立つ言葉」を掲載し、 小学校で学んできた各種の語彙や論理表現などを振り返りながら習得、活用、発展 できるように図っている。 ○「学びナビ」の活用をとおした〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕を有機的に結びつける学習の積み重ねによって、 高等学校の学習指導要領の内容を見据えた論理的思考力の育成 につながるようにしている。 ○語彙に関する学習の充実は表現のための語彙力を向上させ、 高等学校の学習で重視される表現力の育成 へのつながりを意識している。 ○ 高等学校の教科書でも多く取り上げられている執筆者 の文章を掲載し、高等学校の「読むこと」の学習にも円滑につながるように構成している。 ○古典学習の連携として 3年P310『古典文法活用表』 を発展教材として掲載している。

1年P16「言葉と出会う」、P17「聞くということ」、P23「読むことで意味をつくり出す」、など

内田樹・小川洋子・川上弘美・村上春樹・森岡正博、など

3 各領域などの内容・配列

(1) 知識及び技能

<p>生きてはたらく「知識・技能」の習得</p> <p>①言葉の特徴や使い方（言葉の働き、文や文章、言葉遣い、音読、朗読など）</p>	<p>○各教材に〔知識及び技能〕の指導事項を設定し、言語や情報の扱い方、各領域などで学ぶべき基礎的・基本的な知識・技能が身につくように、教材を作成、構成している。</p> <p>○言語教材では、単元内に「言葉の小窓」「文法の小窓」を配し、日常の言語生活から言葉の存在や機能に気づく言語学習への導入を図っている。そこから巻末の解説教材の学習に進み、詳しく体系的に学習できるように構成している。</p> <p>○言語教材では、外国語、特に英語との関わりを意図的に取り上げ、日本語と英語の比較や日本語を母語としない立場をとおとして考えることなどから、日本語の特質について理解が深まり、他の言語についても関心がもてるように図っている。</p> <p>○新出漢字は「読むこと」教材、読書教材、古典教材、「漢字の広場」「漢字の練習」の各教材で、中学校で学ぶ1160字全てを配当し、文や語彙、漢字の知識とともに学習し、漢字の活用を視野に入れた教材化で定着を図っている。</p> <p>○「漢字の広場」は各学年4本ずつ設け、漢字についての知識・理解を整理し、系統的な漢字学習ができるよう配慮している。</p> <p>○漢字の字形は「改定常用漢字表」を基準とし、「通用字体」を主として示している。「改定常用漢字表」での追加字種については、許容字体が示されているものは副次的に示している。</p> <p>○新出漢字については、脚注への取り立てや巻末の「○年生で学習した漢字」では、手書きの際の参考となるよう、教科書体で示している。</p> <p>○各学年の「小学校六年生で学習した漢字」では、筆順、用例と、字体は手書き文字で示し、漢字を書くことの定着を確実にすることができるようにしている。</p>	<p>1年P30・278『言葉の単位』、2年P38・290『活用のない自立語』、3年P72・284『助詞のはたらき』、など</p>
<p>②漢字</p>	<p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、「言葉・情報」の項目を立て、「学びナビ」で取り上げた思考力を支える具体的な表現の型を、話例、文例と関連させて取り立て、語彙や論理的思考力の育成を図っている。</p> <p>○「読むこと」教材では、教材中、重要な語句や表現は、脚注欄に「意味を確認する」「短文作成で表現に生かす」「考えるとき」の観点として生かすなど、学習上の観点とともに抽出し、教材の理解を助けるとともに、異なる学習場面での理解や表現に生かせるよう配慮している。さらに、それらの語句を二次元コードコンテンツ「この教材で学ぶ言葉」にまとめ、教材でおさえるべき語句を整理し、意識化できるように図っている。</p> <p>○巻末付録に「理解に役立つ言葉」「表現に役立つ言葉」を設け、語彙の拡充と、情報の扱い方とも関わる論理的思考力の具体的な手立てとなるように示している。</p> <p>○長く現代まで受け継がれている我が国の言語文化を重視し、古典作品や近代文学はもとより、各領域等で、伝統的な言語文化への関心を高める教材を設けている。</p> <p>*古典作品では、小学校での古典学習もふまえ、我が国の古典を代表する作品を素養として読み味わえるように取り上げている。そのうえで、作品の歴史的背景や全体像にふれるような解説や視覚資料を充実し、中学校での学習が深まるように工夫している。</p> <p>*現代の生徒の関心を高められるよう、昔話のような生徒の学習経験や知識などとの関連も図っている。</p> <p>*巻末付録「言葉の自習室」にも本教材と同じ作品から別の章段などを選んで掲載し、それぞれの作品を多彩に味わい、理解を深められるように工夫している。</p>	<p>1年P50・266『日本語の音声』、1年P30・278『言葉の単位』（日本語と英語の単位）、2年P82・281『話し言葉と書き言葉』、など</p>
<p>③語彙・情報の扱い方</p>	<p>○各学年に「四季のたより」4本を設け、四季それぞれを取り上げた和歌と俳句を読むこととおして、我が国の言語文化を支えている季節感を感じ取れるように工夫している。</p> <p>*各領域等でも、日本や郷土の文化に関わる作品や話題を取り上げている。</p>	<p>1年P48『漢字の部首』、3年P70『呉音・漢音・唐音』、など</p>
<p>④伝統的な言語文化</p>	<p>○さまざまな題材、ジャンル、文種による作品を読み、多様な世界について興味をもち、知り、考えることをとおして、生涯に渡る読書生活を豊かなものにできるよう、工夫している。</p> <p>○読書生活を支えるための、本や図書館などに関する知識や活動を取り上げ、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図ったり、インターネットなどを適正に活用したり、読書交流を行ったりする教材を全学年に設けている。</p> <p>○各単元の教材の内容や話題に関連した図書を、単元ごとに「広がる本の世界」を設けて紹介し、それぞれの教材の理解をより深めるとともに、読書の充実を図っている。また、デジタル資料「まなびリンク」では、図書館司書の仕事や図書館活用と関連させた図書紹介を行っている。</p> <p>○付録「言葉の自習室」では、読書作品として、多様な文種や話題の作品を掲載している。また、巻末の見返しには「ふるさと」を巡る」を設け、各都道府県を代表する作家と作品を写真とともに紹介し、読書へのいざないを図っている。</p> <p>○現代の小説や随筆を読む学習と、情報活用・図書館活用・読書交流の活動を組み合わせた教材を各学年1系列設け、読書の幅を広げ、深められるようにしている。</p> <p>○日本の三大文豪の近代小説を読む学習と、それぞれの作者の生涯を紹介した資料とを組み合わせた教材を各学年1系列設け、文学や我が国の言語文化への興味を高められるようにしている。</p> <p>○各学年の巻末に学習上重要な用語を整理した「学習に必要な用語（索引）」を設け3学年分の内容をまとめて示し、学習の見通しや振り返りもできるようにし、基礎の定着と発展を図っている。</p>	<p>1年P114『昔話と古典』、など</p>
<p>⑤読書</p>	<p>○「読むこと」教材では、「何を」「どのように学ぶのか」という学習の進め方と、目ざすゴールの形として文例を示している。課題解決のための「対話力」「コミュニケーション力」育成を重視し学習を視覚化することにより、生徒が学習の見通しとゴール、重点をおさえて取り組みやすいようにしている。</p> <p>○教材の始めに「学びナビ」を設け、教材で取り組む言語活動の中でどのような思考力をはたらかせると効果的かを解説と図解で示し、活動内容を視覚化・明確化している。学習のポイントがあらかじめ示されることにより、生徒は明確な見通しをもち、重点を明確にして学習を焦点化して進めることができる。</p> <p>*教材の冒頭に目標を示し、「学習の流れ」で学習の過程と重点を把握しながら、教材の最後の「振り返り」で自らの学習を認識することにより、学習の深まりと、次の学習への意欲をもつことができるように図っている。</p> <p>○学習指導要領に示された「書くこと」の学習過程を踏まえ、「課題の設定、情報の収集、内容の検討」「構成の検討」「考えの形成、記述」「推敲」「共有」のそれぞれを重点とした教材を設けている。一部、「読むこと」教材の中で関連的に扱う教材も設けている。</p> <p>○学習指導要領に示された「書くこと」の学習過程の流れと重点を示し、言語活動を展開することで、生徒の側からも「どのような力がつくのか」を意識して自覚的に教材と向き合えるようにしている。</p> <p>*「学習活動の流れ」として学習過程を順序立てて示し、学習の見通しと重点を確認できるようにしている。</p> <p>○「意見文の例」など、実際の学習方法の参考となるような表現モデルを示し、学習のゴールを明確にしている。あわせて、学習の重点の具体化のヒントを示したり、文例の具体的な構成や表現について解説したりして、学習の助けとなるよう工夫している。</p> <p>*「学びナビ」で取り上げた思考力が実際の表現にどのように表れているか、図解で具体例を示している。また、文例のあとに文型などの表現を取り立て、思考力をおさえた表現活動が今後の学習にも活用できるよう図っている。</p> <p>○社会生活における表現力や言語コミュニケーションについて取り上げたコラム教材「言葉と社会」を、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の両領域を視野に含めて教材化している。特に「書くこと」においては、日常生活から社会生活の中で、生きてはたらく、現代に求められる表現力の重要性を意識づける内容を取り上げている。</p> <p>○「読むこと」では、生徒の興味・関心を高める話題や作者・筆者の、多彩な文章を取り上げている。</p> <p>○教材文の前に、文章が「どのように書かれているか」を知り、文章の「読み方」を学ぶ「学びナビ」を設け、教材文の読みの観点を明確化・焦点化し、主体的に読み進める観点を示している。</p> <p>*「学びナビ」の中で、特に教材文の読み重点と関わるポイントを「ヒント」として示している。</p> <p>○各教材に学習の手引き「みちしるべ」を置き、「学びナビ」や「ヒント」でおさえた「読み方」や学習の重点を踏まえて、内容を読み深められるように構成している。</p> <p>○「みちしるべ」は、学習指導要領に示された学習過程を踏まえ、3段階の構成で読みを深められるようにしている。「内容を捉えよう」……主として「構造と内容の把握」をおさえ、文章に書かれている情報を的確に読む活動を設定している。</p> <p>「読み深めよう」……主として「精査・解釈」をおさえ、文章の構成や表現をもとに、内容の理解を深める活動を設定している。</p> <p>「自分の考えを伝え合おう」……主として「考えの形成、共有」「言語活動」をおさえ、読んだことをもとに自分の考えをまとめ、他者の読みと交流することで、対話的で深い学びを実現できるようにしている。</p> <p>*〔知識及び技能〕における「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」と、〔思考力、判断力、表現力等〕の関連から活用を図れるよう「言葉・情報」の活動を設け、習得と活用を意識づけて読むことができるようにしている。</p>	<p>1年P302『蓬莱の玉の枝と偽りの苦心談』、2年P312『扇の的』、3年P308『古典文学の名作』</p>
<p>⑥学習用語と学習事項の系統化</p>	<p>○「話すこと・聞くこと」の教材では、「何を」「どのように学ぶのか」という学習の進め方と、目ざすゴールの形として文例を示している。課題解決のための「対話力」「コミュニケーション力」育成を重視し学習を視覚化することにより、生徒が学習の見通しとゴール、重点をおさえて取り組みやすいようにしている。</p> <p>○教材の始めに「学びナビ」を設け、教材で取り組む言語活動の中でどのような思考力をはたらかせると効果的かを解説と図解で示し、活動内容を視覚化・明確化している。学習のポイントがあらかじめ示されることにより、生徒は明確な見通しをもち、重点を明確にして学習を焦点化して進めることができる。</p> <p>*教材の冒頭に目標を示し、「学習の流れ」で学習の過程と重点を把握しながら、教材の最後の「振り返り」で自らの学習を認識することにより、学習の深まりと、次の学習への意欲をもつことができるように図っている。</p> <p>○学習指導要領に示された「書くこと」の学習過程を踏まえ、「課題の設定、情報の収集、内容の検討」「構成の検討」「考えの形成、記述」「推敲」「共有」のそれぞれを重点とした教材を設けている。一部、「読むこと」教材の中で関連的に扱う教材も設けている。</p> <p>○学習指導要領に示された「書くこと」の学習過程の流れと重点を示し、言語活動を展開することで、生徒の側からも「どのような力がつくのか」を意識して自覚的に教材と向き合えるようにしている。</p> <p>*「学習活動の流れ」として学習過程を順序立てて示し、学習の見通しと重点を確認できるようにしている。</p> <p>○「意見文の例」など、実際の学習方法の参考となるような表現モデルを示し、学習のゴールを明確にしている。あわせて、学習の重点の具体化のヒントを示したり、文例の具体的な構成や表現について解説したりして、学習の助けとなるよう工夫している。</p> <p>*「学びナビ」で取り上げた思考力が実際の表現にどのように表れているか、図解で具体例を示している。また、文例のあとに文型などの表現を取り立て、思考力をおさえた表現活動が今後の学習にも活用できるよう図っている。</p> <p>○社会生活における表現力や言語コミュニケーションについて取り上げたコラム教材「言葉と社会」を、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の両領域を視野に含めて教材化している。特に「書くこと」においては、日常生活から社会生活の中で、生きてはたらく、現代に求められる表現力の重要性を意識づける内容を取り上げている。</p> <p>○「読むこと」では、生徒の興味・関心を高める話題や作者・筆者の、多彩な文章を取り上げている。</p> <p>○教材文の前に、文章が「どのように書かれているか」を知り、文章の「読み方」を学ぶ「学びナビ」を設け、教材文の読みの観点を明確化・焦点化し、主体的に読み進める観点を示している。</p> <p>*「学びナビ」の中で、特に教材文の読み重点と関わるポイントを「ヒント」として示している。</p> <p>○各教材に学習の手引き「みちしるべ」を置き、「学びナビ」や「ヒント」でおさえた「読み方」や学習の重点を踏まえて、内容を読み深められるように構成している。</p> <p>○「みちしるべ」は、学習指導要領に示された学習過程を踏まえ、3段階の構成で読みを深められるようにしている。「内容を捉えよう」……主として「構造と内容の把握」をおさえ、文章に書かれている情報を的確に読む活動を設定している。</p> <p>「読み深めよう」……主として「精査・解釈」をおさえ、文章の構成や表現をもとに、内容の理解を深める活動を設定している。</p> <p>「自分の考えを伝え合おう」……主として「考えの形成、共有」「言語活動」をおさえ、読んだことをもとに自分の考えをまとめ、他者の読みと交流することで、対話的で深い学びを実現できるようにしている。</p> <p>*〔知識及び技能〕における「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」と、〔思考力、判断力、表現力等〕の関連から活用を図れるよう「言葉・情報」の活動を設け、習得と活用を意識づけて読むことができるようにしている。</p>	<p>2年P48『日本の花火の楽しみ』、各学年後見返し④『「ふるさと」を巡る』、など</p>
<p>⑥学習用語と学習事項の系統化</p>	<p>○「話すこと・聞くこと」の教材では、「何を」「どのように学ぶのか」という学習の進め方と、目ざすゴールの形として文例を示している。課題解決のための「対話力」「コミュニケーション力」育成を重視し学習を視覚化することにより、生徒が学習の見通しとゴール、重点をおさえて取り組みやすいようにしている。</p> <p>○教材の始めに「学びナビ」を設け、教材で取り組む言語活動の中でどのような思考力をはたらかせると効果的かを解説と図解で示し、活動内容を視覚化・明確化している。学習のポイントがあらかじめ示されることにより、生徒は明確な見通しをもち、重点を明確にして学習を焦点化して進めることができる。</p> <p>*教材の冒頭に目標を示し、「学習の流れ」で学習の過程と重点を把握しながら、教材の最後の「振り返り」で自らの学習を認識することにより、学習の深まりと、次の学習への意欲をもつことができるように図っている。</p> <p>○学習指導要領に示された「書くこと」の学習過程を踏まえ、「課題の設定、情報の収集、内容の検討」「構成の検討」「考えの形成、記述」「推敲」「共有」のそれぞれを重点とした教材を設けている。一部、「読むこと」教材の中で関連的に扱う教材も設けている。</p> <p>○学習指導要領に示された「書くこと」の学習過程の流れと重点を示し、言語活動を展開することで、生徒の側からも「どのような力がつくのか」を意識して自覚的に教材と向き合えるようにしている。</p> <p>*「学習活動の流れ」として学習過程を順序立てて示し、学習の見通しと重点を確認できるようにしている。</p> <p>○「意見文の例」など、実際の学習方法の参考となるような表現モデルを示し、学習のゴールを明確にしている。あわせて、学習の重点の具体化のヒントを示したり、文例の具体的な構成や表現について解説したりして、学習の助けとなるよう工夫している。</p> <p>*「学びナビ」で取り上げた思考力が実際の表現にどのように表れているか、図解で具体例を示している。また、文例のあとに文型などの表現を取り立て、思考力をおさえた表現活動が今後の学習にも活用できるよう図っている。</p> <p>○社会生活における表現力や言語コミュニケーションについて取り上げたコラム教材「言葉と社会」を、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の両領域を視野に含めて教材化している。特に「書くこと」においては、日常生活から社会生活の中で、生きてはたらく、現代に求められる表現力の重要性を意識づける内容を取り上げている。</p> <p>○「読むこと」では、生徒の興味・関心を高める話題や作者・筆者の、多彩な文章を取り上げている。</p> <p>○教材文の前に、文章が「どのように書かれているか」を知り、文章の「読み方」を学ぶ「学びナビ」を設け、教材文の読みの観点を明確化・焦点化し、主体的に読み進める観点を示している。</p> <p>*「学びナビ」の中で、特に教材文の読み重点と関わるポイントを「ヒント」として示している。</p> <p>○各教材に学習の手引き「みちしるべ」を置き、「学びナビ」や「ヒント」でおさえた「読み方」や学習の重点を踏まえて、内容を読み深められるように構成している。</p> <p>○「みちしるべ」は、学習指導要領に示された学習過程を踏まえ、3段階の構成で読みを深められるようにしている。「内容を捉えよう」……主として「構造と内容の把握」をおさえ、文章に書かれている情報を的確に読む活動を設定している。</p> <p>「読み深めよう」……主として「精査・解釈」をおさえ、文章の構成や表現をもとに、内容の理解を深める活動を設定している。</p> <p>「自分の考えを伝え合おう」……主として「考えの形成、共有」「言語活動」をおさえ、読んだことをもとに自分の考えをまとめ、他者の読みと交流することで、対話的で深い学びを実現できるようにしている。</p> <p>*〔知識及び技能〕における「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」と、〔思考力、判断力、表現力等〕の関連から活用を図れるよう「言葉・情報」の活動を設け、習得と活用を意識づけて読むことができるようにしている。</p>	<p>1年P56『ベンチ』、2年P74『夢を跳ぶ』、3年P50『薔薇のボタン』</p>
<p>⑥学習用語と学習事項の系統化</p>	<p>○「話すこと・聞くこと」の教材では、「何を」「どのように学ぶのか」という学習の進め方と、目ざすゴールの形として文例を示している。課題解決のための「対話力」「コミュニケーション力」育成を重視し学習を視覚化することにより、生徒が学習の見通しとゴール、重点をおさえて取り組みやすいようにしている。</p> <p>○教材の始めに「学びナビ」を設け、教材で取り組む言語活動の中でどのような思考力をはたらかせると効果的かを解説と図解で示し、活動内容を視覚化・明確化している。学習のポイントがあらかじめ示されることにより、生徒は明確な見通しをもち、重点を明確にして学習を焦点化して進めることができる。</p> <p>*教材の冒頭に目標を示し、「学習の流れ」で学習の過程と重点を把握しながら、教材の最後の「振り返り」で自らの学習を認識することにより、学習の深まりと、次の学習への意欲をもつことができるように図っている。</p> <p>○学習指導要領に示された「書くこと」の学習過程を踏まえ、「課題の設定、情報の収集、内容の検討」「構成の検討」「考えの形成、記述」「推敲」「共有」のそれぞれを重点とした教材を設けている。一部、「読むこと」教材の中で関連的に扱う教材も設けている。</p> <p>○学習指導要領に示された「書くこと」の学習過程の流れと重点を示し、言語活動を展開することで、生徒の側からも「どのような力がつくのか」を意識して自覚的に教材と向き合えるようにしている。</p> <p>*「学習活動の流れ」として学習過程を順序立てて示し、学習の見通しと重点を確認できるようにしている。</p> <p>○「意見文の例」など、実際の学習方法の参考となるような表現モデルを示し、学習のゴールを明確にしている。あわせて、学習の重点の具体化のヒントを示したり、文例の具体的な構成や表現について解説したりして、学習の助けとなるよう工夫している。</p> <p>*「学びナビ」で取り上げた思考力が実際の表現にどのように表れているか、図解で具体例を示している。また、文例のあとに文型などの表現を取り立て、思考力をおさえた表現活動が今後の学習にも活用できるよう図っている。</p> <p>○社会生活における表現力や言語コミュニケーションについて取り上げたコラム教材「言葉と社会」を、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の両領域を視野に含めて教材化している。特に「書くこと」においては、日常生活から社会生活の中で、生きてはたらく、現代に求められる表現力の重要性を意識づける内容を取り上げている。</p> <p>○「読むこと」では、生徒の興味・関心を高める話題や作者・筆者の、多彩な文章を取り上げている。</p> <p>○教材文の前に、文章が「どのように書かれているか」を知り、文章の「読み方」を学ぶ「学びナビ」を設け、教材文の読みの観点を明確化・焦点化し、主体的に読み進める観点を示している。</p> <p>*「学びナビ」の中で、特に教材文の読み重点と関わるポイントを「ヒント」として示している。</p> <p>○各教材に学習の手引き「みちしるべ」を置き、「学びナビ」や「ヒント」でおさえた「読み方」や学習の重点を踏まえて、内容を読み深められるように構成している。</p> <p>○「みちしるべ」は、学習指導要領に示された学習過程を踏まえ、3段階の構成で読みを深められるようにしている。「内容を捉えよう」……主として「構造と内容の把握」をおさえ、文章に書かれている情報を的確に読む活動を設定している。</p> <p>「読み深めよう」……主として「精査・解釈」をおさえ、文章の構成や表現をもとに、内容の理解を深める活動を設定している。</p> <p>「自分の考えを伝え合おう」……主として「考えの形成、共有」「言語活動」をおさえ、読んだことをもとに自分の考えをまとめ、他者の読みと交流することで、対話的で深い学びを実現できるようにしている。</p> <p>*〔知識及び技能〕における「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」と、〔思考力、判断力、表現力等〕の関連から活用を図れるよう「言葉・情報」の活動を設け、習得と活用を意識づけて読むことができるようにしている。</p>	<p>1年P134『蜘蛛の糸』、2年P148『坊っちゃん』、3年P142『最後の一句』</p>
<p>⑥学習用語と学習事項の系統化</p>	<p>○「話すこと・聞くこと」の教材では、「何を」「どのように学ぶのか」という学習の進め方と、目ざすゴールの形として文例を示している。課題解決のための「対話力」「コミュニケーション力」育成を重視し学習を視覚化することにより、生徒が学習の見通しとゴール、重点をおさえて取り組みやすいようにしている。</p> <p>○教材の始めに「学びナビ」を設け、教材で取り組む言語活動の中でどのような思考力をはたらかせると効果的かを解説と図解で示し、活動内容を視覚化・明確化している。学習のポイントがあらかじめ示されることにより、生徒は明確な見通しをもち、重点を明確にして学習を焦点化して進めることができる。</p> <p>*教材の冒頭に目標を示し、「学習の流れ」で学習の過程と重点を把握しながら、教材の最後の「振り返り」で自らの学習を認識することにより、学習の深まりと、次の学習への意欲をもつことができるように図っている。</p> <p>○学習指導要領に示された「書くこと」の学習過程を踏まえ、「課題の設定、情報の収集、内容の検討」「構成の検討」「考えの形成、記述」「推敲」「共有」のそれぞれを重点とした教材を設けている。一部、「読むこと」教材の中で関連的に扱う教材も設けている。</p> <p>○学習指導要領に示された「書くこと」の学習過程の流れと重点を示し、言語活動を展開することで、生徒の側からも「どのような力がつくのか」を意識して自覚的に教材と向き合えるようにしている。</p> <p>*「学習活動の流れ」として学習過程を順序立てて示し、学習の見通しと重点を確認できるようにしている。</p> <p>○「意見文の例」など、実際の学習方法の参考となるような表現モデルを示し、学習のゴールを明確にしている。あわせて、学習の重点の具体化のヒントを示したり、文例の具体的な構成や表現について解説したりして、学習の助けとなるよう工夫している。</p> <p>*「学びナビ」で取り上げた思考力が実際の表現にどのように表れているか、図解で具体例を示している。また、文例のあとに文型などの表現を取り立て、思考力をおさえた表現活動が今後の学習にも活用できるよう図っている。</p> <p>○社会生活における表現力や言語コミュニケーションについて取り上げたコラム教材「言葉と社会」を、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の両領域を視野に含めて教材化している。特に「書くこと」においては、日常生活から社会生活の中で、生きてはたらく、現代に求められる表現力の重要性を意識づける内容を取り上げている。</p> <p>○「読むこと」では、生徒の興味・関心を高める話題や作者・筆者の、多彩な文章を取り上げている。</p> <p>○教材文の前に、文章が「どのように書かれているか」を知り、文章の「読み方」を学ぶ「学びナビ」を設け、教材文の読みの観点を明確化・焦点化し、主体的に読み進める観点を示している。</p> <p>*「学びナビ」の中で、特に教材文の読み重点と関わるポイントを「ヒント」として示している。</p> <p>○各教材に学習の手引き「みちしるべ」を置き、「学びナビ」や「ヒント」でおさえた「読み方」や学習の重点を踏まえて、内容を読み深められるように構成している。</p> <p>○「みちしるべ」は、学習指導要領に示された学習過程を踏まえ、3段階の構成で読みを深められるようにしている。「内容を捉えよう」……主として「構造と内容の把握」をおさえ、文章に書かれている情報を的確に読む活動を設定している。</p> <p>「読み深めよう」……主として「精査・解釈」をおさえ、文章の構成や表現をもとに、内容の理解を深める活動を設定している。</p> <p>「自分の考えを伝え合おう」……主として「考えの形成、共有」「言語活動」をおさえ、読んだことをもとに自分の考えをまとめ、他者の読みと交流することで、対話的で深い学びを実現できるようにしている。</p> <p>*〔知識及び技能〕における「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」と、〔思考力、判断力、表現力等〕の関連から活用を図れるよう「言葉・情報」の活動を設け、習得と活用を意識づけて読むことができるようにしている。</p>	<p>1年P323、2年P338、3年P325</p>

(2) 思考力、判断力、表現力等

<p>①話すこと・聞くこと</p> <p>目的意識、必然性・必要感と意欲を重視</p> <p>●「対話力」「コミュニケーション力」育成の重視</p> <p>●言語活動の中にはたらく思考力の明示</p> <p>●振り返りによる学びの深化</p> <p>●系統・系列</p>	<p>○「話すこと・聞くこと」の教材では、「何を」「どのように学ぶのか」という学習の進め方と、目ざすゴールとして話例を示している。課題解決のための「対話力」「コミュニケーション力」育成を重視し、学習を視覚化することにより、生徒が学習の見通しとゴール、重点を明確におさえられるようにしている。</p> <p>○教材の始めに「学びナビ」を設け、その教材で取り組む言語活動の中でどのような思考力をはたらかせると効果的かを解説と図解で示し、活動内容を視覚化・明確化している。あらかじめ学習のポイントが示されることにより、生徒は明確な見通しをもち、重点を明確にして学習を焦点化して進めることができる。</p> <p>*教材の冒頭に目標を示し、「学習の流れ」で学習の過程と重点を把握しながら、教材末尾の「振り返り」で自らの学習を認識することにより、学習の深まりと次の学習への意欲をもつことができるように図っている。</p> <p>○教材は、各学年とも学習指導要領に示された「話すこと・聞くこと」の構成を踏まえ、「話す」「聞く」「話し合う」のそれぞれを重点とした3教材を設けている。</p> <p>*加えて、学年冒頭の「話すこと・聞くこと」教材として、コラム教材でペアやグループで短時間に行える活動を設け、コミュニケーションの楽しさや対話的な学習の大切さを実感できるようにしている。</p> <p>○主たる3教材では、学習指導要領に示された「話すこと・聞くこと」の学習過程の流れと重点を示し、言語活動を展開している。重点を冒頭に示し、生徒の側からも「どのような力がつくのか」を意識して自覚的に教材と向き合えるようにしている。</p> <p>*「学習活動の流れ」として学習過程を順序立てて示し、学習の見通しと重点を確認できるようにしている。</p> <p>○「スピーチの例」など、実際の学習方法の参考となるような表現モデルを示し、学習のゴールを明確にしている。あわせて、スピーチや話し合いの様子を図解したり、話例の具体的な構成や表現について解説したりして、学習の助けとなるよう工夫している。</p> <p>*「学びナビ」で取り上げた思考力が、実際の表現にどのように表れているか、図解で具体例を示している。また、話例のあとに文型などの表現を取り立て、思考力をおさえた表現活動が、今後の学習にも活用できるよう図っている。</p> <p>○社会生活における表現力や言語コミュニケーションについて取り上げたコラム教材「言葉と社会」を、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の両領域を視野に含めて教材化している。特に「話すこと・聞くこと」においては、「分かり合うための言語コミュニケーション」（2018 文化庁）の内容も踏まえながら、日常生活から社会生活まで、言語コミュニケーションの重要性を意識づける内容を取り上げている。</p>	<p>1年P22『お気に入りの一品を紹介する』、2年P21『いろいろな立場や考えを踏まえる』、3年P31『情報を確かめてスピーチをする』</p>
<p>●学習過程の重視</p>	<p>○「書くこと」の教材では、「何を」「どのように学ぶのか」という学習の進め方と、目ざすゴールの形として文例を示している。課題解決のための「対話力」「コミュニケーション力」育成を重視し学習を視覚化することにより、生徒が学習の見通しとゴール、重点をおさえて取り組みやすいようにしている。</p> <p>○教材の始めに「学びナビ」を設け、教材で取り組む言語活動の中でどのような思考力をはたらかせると効果的かを解説と図解で示し、活動内容を視覚化・明確化している。学習のポイントがあらかじめ示されることにより、生徒は明確な見通しをもち、重点を明確にして学習を焦点化して進めることができる。</p> <p>*教材の冒頭に目標を示し、「学習の流れ」で学習の過程と重点を把握しながら、教材の最後の「振り返り」で自らの学習を認識することにより、学習の深まりと、次の学習への意欲をもつことができるように図っている。</p> <p>○学習指導要領に示された「書くこと」の学習過程を踏まえ、「課題の設定、情報の収集、内容の検討」「構成の検討」「考えの形成、記述」「推敲」「共有」のそれぞれを重点とした教材を設けている。一部、「読むこと」教材の中で関連的に扱う教材も設けている。</p> <p>○学習指導要領に示された「書くこと」の学習過程の流れと重点を示し、言語活動を展開することで、生徒の側からも「どのような力がつくのか」を意識して自覚的に教材と向き合えるようにしている。</p> <p>*「学習活動の流れ」として学習過程を順序立てて示し、学習の見通しと重点を確認できるようにしている。</p> <p>○「意見文の例」など、実際の学習方法の参考となるような表現モデルを示し、学習のゴールを明確にしている。あわせて、学習の重点の具体化のヒントを示したり、文例の具体的な構成や表現について解説したりして、学習の助けとなるよう工夫している。</p> <p>*「学びナビ」で取り上げた思考力が実際の表現にどのように表れているか、図解で具体例を示している。また、文例のあとに文型などの表現を取り立て、思考力をおさえた表現活動が今後の学習にも活用できるよう図っている。</p> <p>○社会生活における表現力や言語コミュニケーションについて取り上げたコラム教材「言葉と社会」を、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の両領域を視野に含めて教材化している。特に「書くこと」においては、日常生活から社会生活の中で、生きてはたらく、現代に求められる表現力の重要性を意識づける内容を取り上げている。</p>	<p>1年P31『言葉とコミュニケーション』、2年P238『社会生活と言語コミュニケーション』、3年P202『コミュニケーションの場を考える』</p>
<p>●社会生活における表現力の重視</p>	<p>○「書くこと」の教材では、「何を」「どのように学ぶのか」という学習の進め方と、目ざすゴールの形として文例を示している。課題解決のための「対話力」「コミュニケーション力」育成を重視し学習を視覚化することにより、生徒が学習の見通しとゴール、重点をおさえて取り組みやすいようにしている。</p> <p>○教材の始めに「学びナビ」を設け、教材で取り組む言語活動の中でどのような思考力をはたらかせると効果的かを解説と図解で示し、活動内容を視覚化・明確化している。学習のポイントがあらかじめ示されることにより、生徒は明確な見通しをもち、重点を明確にして学習を焦点化して進めることができる。</p> <p>*教材の冒頭に目標を示し、「学習の流れ」で学習の過程と重点を把握しながら、教材の最後の「振り返り」で自らの学習を認識することにより、学習の深まりと、次の学習への意欲をもつことができるように図っている。</p> <p>○学習指導要領に示された「書くこと」の学習過程を踏まえ、「課題の設定、情報の収集、内容の検討」「構成の検討」「考えの形成、記述」「推敲」「共有」のそれぞれを重点とした教材を設けている。一部、「読むこと」教材の中で関連的に扱う教材も設けている。</p> <p>○学習指導要領に示された「書くこと」の学習過程の流れと重点を示し、言語活動を展開することで、生徒の側からも「どのような力がつくのか」を意識して自覚的に教材と向き合えるようにしている。</p> <p>*「学習活動の流れ」として学習過程を順序立てて示し、学習の見通しと重点を確認できるようにしている。</p> <p>○「意見文の例」など、実際の学習方法の参考となるような表現モデルを示し、学習のゴールを明確にしている。あわせて、学習の重点の具体化のヒントを示したり、文例の具体的な構成や表現について解説したりして、学習の助けとなるよう工夫している。</p> <p>*「学びナビ」で取り上げた思考力が実際の表現にどのように表れているか、図解で具体例を示している。また、文例のあとに文型などの表現を取り立て、思考力をおさえた表現活動が今後の学習にも活用できるよう図っている。</p> <p>○社会生活における表現力や言語コミュニケーションについて取り上げたコラム教材「言葉と社会」を、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の両領域を視野に含めて教材化している。特に「書くこと」においては、日常生活から社会生活の中で、生きてはたらく、現代に求められる表現力の重要性を意識づける内容を取り上げている。</p>	<p>1年P184『イメージを言葉にする』、2年P71『社会で求められる表現』、3年P236『自分の意見を述べるとき』</p>
<p>②書くこと</p> <p>目的意識、相手意識、意欲を重視した言語活動</p> <p>●「対話力」「コミュニケーション力」育成の重視</p> <p>●言語活動の中にはたらく思考力の明示</p> <p>●振り返りによる学びの深化</p> <p>●系統・系列</p>	<p>○「書くこと」の教材では、「何を」「どのように学ぶのか」という学習の進め方と、目ざすゴールの形として文例を示している。課題解決のための「対話力」「コミュニケーション力」育成を重視し学習を視覚化することにより、生徒が学習の見通しとゴール、重点をおさえて取り組みやすいようにしている。</p> <p>○教材の始めに「学びナビ」を設け、教材で取り組む言語活動の中でどのような思考力をはたらかせると効果的かを解説と図解で示し、活動内容を視覚化・明確化している。学習のポイントがあらかじめ示される</p>	

<p>【説明的文章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●読んで考えを形成する ●異なるテキストを関係づけて読む 	<p>* 読みにおける重要な語句や表現を脚注に取り上げ、意味調べ、短文作りなど、語彙の定着と拡充や、情報の扱い方の習熟につながる観点を示している。また、それらの語句や表現を二次元コードコンテンツ「この教材で学ぶ言葉」として、語彙、情報の扱い方の学習を確実なものとして、次の学習につなげることができるように図っている。</p> <p>○説明的文章では、SDGsに関する内容のものを含め、特に現代の生徒が日常生活や社会生活の中で向き合うべきさまざまな話題、構成、表現の文章を読むことをとおして、主体的に課題を発見し、論理的思考力が高まるようにしている。</p> <p>* 表現や構成の整った説明や報告、論説・評論などの文章を取り入れ、内容の理解と自分の考えの形成を促すことができるようにしている。</p> <p>* 図表や写真などと文章の関係を捉えて読むことにより、多様なテキストの分析や解釈をする力を高める文章を取り入れている。</p>
<p>●複数のテキストを読む</p>	<p>* SDGsをはじめ現代社会のさまざまな課題について思考し、自分の考えを形成、表現できるような話題・内容を多数取り入れている。</p> <p>* 複数の文章を比較して読むことにより、思考力・判断力・表現力を高め、読みを深められるようにしている。</p>
<p>【文学的文章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現代の中学生が読むべき作品・作家 	<p>○文学的文章では、豊かな表現を読むことをとおして生徒の心の成長にも資するような作品を多く取り入れている。</p> <p>* 文章の内容や表現から、文学作品としての味わいを感じたり、自分の考えの形成を促したりするような作品、また音読や朗読で作品のよさにふれられるような作品を近現代文学などから多く選定している。</p> <p>* 現在の中学生在が接する世界にふれられるよう、現在活躍している作家を積極的に取り上げている。</p>
<p>●詩・短詩型文学の重視</p>	<p>* 詩については、近代の名作から現代的な感性を感じさせる作品まで、幅広い作者と作風の作品を取り上げている。</p> <p>* 短詩型文学については、近代の名作から現代作家による作品まで幅広く取り上げている。また、短歌を穂村弘、俳句を堀本裕樹の、現代を代表する作家による解説とともに読むことで、解釈の豊かさにもふれ、生徒自身の読みに新たな視点を与えられるよう図っている。</p>
<p>④情報・メディアと表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多様なメディアを理解し、考える ●情報モラルやメディア・リテラシーについての理解 ●多様なメディアの特性を理解する 	<p>○生徒が日常世界でふれるさまざまなメディアを取り上げた「情報・メディアと表現」の教材を各学年に設け、それぞれのメディアの特性を理解し、メディアの扱いや情報モラル、メディア・リテラシーに関する理解を深めるようにしている。</p> <p>* 情報モラルやメディア・リテラシーに関する内容を知識として理解し、考えるための教材を各学年に設けている。</p> <p>* さまざまなメディアの表現の特性を理解し、言葉とメディアの関係を考える学習をとおして多様なテキストを評価したり情報を活用したりする新しい学力や学習活動に対応できるようにしている。</p>
<p>⑤学びのチャレンジ 読解力を自分の力で試す</p>	<p>○全国学習状況・学力調査や高校入試での「思考力問題」なども踏まえ、多様なテキストを組み合わせて読むなどして、自分の考えを書く問題を「学びのチャレンジ」として各学年に掲載し、読解力の向上を自分の力で確かめられるよう図っている。</p> <p>* 問題の文章は、文学、説明文、実用文、論説文など幅広い文種から取り上げている。</p> <p>* 図やグラフなどの非連続テキストと文章とを組み合わせて読むなど、異なるテキストを関連づけて読み、考え、表現する問題を設定している。</p>

4 デジタル機器を使用した学習への対応

<p>①「まなびリンク」（二次元コード）との連動</p> <p>②学習者用端末の活用</p> <p>③デジタル教科書・教材</p>	<p>○教材内容に応じて「まなびリンク」を設け、学習時に参照できる生徒の自学自習に資する資料や、参考図書、参考作品、動画・画像資料などを教育出版のウェブサイトで見られるようにしている。（全150コンテンツ）</p> <p>○発達段階に応じた、学習者用端末を効果的に活用できる学習活動を設定している。</p> <p>○教科書と同内容で、特別支援に資する機能を備えた学習者用デジタル教科書や、朗読音声や資料を追加した学習者用デジタル教材・指導者用デジタル教科書（教材）を発行している。</p>
<p>④デジタルへの対応</p>	<p>○デジタル教科書がより使いやすいものになるよう工夫している。デジタル端末での視認性を考慮し、本文の行間を広げることで、ルビ等を見やすくしている。また、授業での利便性を高めるため、文の切り取り機能を加えている。</p>

5 特別支援教育や色覚特性などへの対応

<p>①特別支援教育への対応</p>	<p>○文字と、イラストや図表、模様などの空きや重なりに注意したり、マークやデザインの使用を統一的に整理したりするなど、教材の重点に集中でき、内容が把握しやすいレイアウトを工夫している。</p> <p>○各領域等の教材で、学習の見通しや授業過程、重点をおさえた教材化を図り、学習のユニバーサル化に対応している。</p> <p>* 各領域の「学びナビ」や、話すこと・聞くこと、書くこと教材での、学習内容や言語活動の具体例の図解や資料の提示、読むこと教材の「みちしるべ」で理解を促す「参考」を示すなど、どの生徒にとっても自分の力に応じて学習に取り組めるよう配慮している。</p> <p>○専門家によるチェックを経ている。</p>
<p>②カラーユニバーサルデザイン</p>	<p>○学年の基本色を設定し、統一的で落ち着いた色づかいとデザインを採用している。</p> <p>○イラストや図版は、内容が区別できるような色づかいと色彩のバランスを考え、形のうえでも区別しやすいようにしたり、色による指示を含んだ設問や色に基づく活動を避けたりするなど、生徒の負担感をなくす工夫をしている。</p> <p>○専門機関（CUDO）によるチェックを経て認証を得ている。</p>

6 その他、今日的教育課題への対応

<p>①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実のための工夫</p>	<p>○学習の見通しと振り返りを踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、各領域での学習課題を明確にし、「個別最適な学び」に対応できるように配慮している。</p> <p>○各領域の学習活動ではデジタル機器などを活用できる内容を盛り込んでいる。また、二次元コードコンテンツ「まなびリンク」にある各領域の教材内容を補完する資料を用意している。これらを活用することで、個別の学習課題にも対応できるように配慮している。</p> <p>○各領域の学習活動では、自分の考えの共有などのために、グループなどでの話し合いなど、協働して学習する活動を適宜設定し、個人の課題を協働して解決するための力が高まるよう工夫している。</p>
<p>②主体的に学習に取り組む態度の育成</p>	<p>○各教材の目標と振り返りを明確に示し、学習の見通しをもち、自分の学習を認識することができるよう配慮している。</p> <p>○「学びナビ」では、文章を読む前や言語活動に取り組む前に、当該教材での学習の重点や学習内容の観点を把握することで、学習の見通しが明確になり、主体的に学習に関わるかまえをつくり、読みを深めることができるよう図っている。</p>
<p>③カリキュラム・マネジメントへの対応</p>	<p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材の学習活動や、「読むこと」教材の「みちしるべ」などで生徒の交流活動を設け、相互に課題を交換しながら主体的・対話的で深い学びが導かれるよう図っている。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、教材末の「学びを生かそう」で、国語科で学んだことを他教科や日常生活に活用できるよう、示唆している。</p>
<p>④持続可能な社会の創り手を育む教育（ESD教育・SDGs）</p>	<p>○各学年の「総合（SDGs）教材をはじめ、各領域にSDGsや生徒が日常的に向き合っている課題を取り上げた教材を置き、社会科、理科、道徳などでの学習との関連がはかれるように配慮している。</p> <p>○各領域にSDGsに関わる、人権、平和、環境、産業など、生徒が日頃の生活で向き合っている課題について、自ら考え、表現する力を高められるよう図っている。またその関連を教科書冒頭の「言葉の地図」で示している。</p> <p>○各学年に「総合（SDGs）教材」を設け、SDGsの各目標に国語の各領域の学習を関連させ、自ら考え、協働して課題を解決する学習を設定している。</p>
<p>⑤キャリア教育への対応</p>	<p>○自立した個人として、他者を尊重し、社会形成の一員としての自覚をもてるような教材を掲載している。</p> <p>○さまざまな立場や分野で活躍している執筆者による教材を取り上げ、学習をとおして社会との関わりを自覚できるように工夫している。</p>
<p>⑥環境に関する教育</p>	<p>○地球規模から身近な生活まで、環境や自然について考える教材を掲載している。</p>
<p>⑦科学技術の発展への対応</p>	<p>○社会のさまざまな課題に対して、根拠をもとに論理的に考えることのできるための教材を掲載している。</p>
<p>⑧情報化社会への対応</p>	<p>○生徒が身近な情報媒体について知り、それを活用して考え、表現するための教材を掲載している。</p> <p>○生徒が日常で接する多様なメディアについて、媒体の特色や扱い方、接する際のモラルや注意点など、メディアに対する知識と活用を高める教材を掲載している。</p>
<p>○さまざまな立場や考え方の他者と理解し合うことができるような観点を教材に掲載している。</p>	<p>○1年P103「根拠を明確にして意見文を書く」、2年P235「さまざまな考えを踏まえ討論をする」、3年P59「構成を工夫して主張をまとめる」、など</p> <p>○1年P80「持続可能な未来を創るために——人の暮らし方を考える」、2年P96「持続可能な未来を創るために——不平等のない社会を考える」、3年P222「持続可能な未来を創るために——人間の生命・存在を考える」、など</p> <p>○1年P90「森には魔法つかいがある」、P176「子どもの権利」、2年P106「紙の建築」、3年P92「async——同期しないこと」、P98「問いかける言葉」、など</p> <p>○1年P80「持続可能な未来を創るために——人の暮らし方を考える」、P90「森には魔法つかいがある」、2年P56「水の山 富士山」、P196「ガイアの知性」、P235「さまざまな考えを踏まえ討論をする」、など</p> <p>○1年P36「自分の脳を知っていますか」、2年P56「水の山 富士山」、P83「相違点を明確にして聞く」、3年P76「A Iは哲学できるか」、など</p> <p>○1年P66「全ては編集されている」、P68「写真で「真実」を表現する」、P106「広告の情報を考える」、P232「漫画で「物語」を表現する」、2年P86「S N Sから自由になるために」、P88「脚本で動きを説明する」、P188「映像作品の表現を考える」、3年P62「メディア・リテラシーはなぜ必要か？」、P66「新聞が伝える情報を考える」、など</p> <p>○1年P36「自分の脳を知っていますか」、2年P74「夢を跳ぶ」、P96「持続可能な未来を創るために——不平等のない社会を考える」、3年P59「構成を工夫して主張をまとめる」、P232「「対話力」とは何か」、など</p>

⑨生命の尊重への対応	○ 生命の尊さをさまざまな角度から考える ための教材を掲載している。	2年P124『敦盛の最期』、P174『夏の葬列』、P244『豚』、3年P24『なぜ物語が必要なのか』、P222『持続可能な未来を創るために——人間の生命・存在を考える』、など
⑩安心・安全な社会への対応	○ さまざまな災害などについてふれる 教材を掲載している。	1年P90『森には魔法つかいがいる』、2年P63『課題を設定して伝える』、P106『紙の建築』、3年P92『async——同期しないこと』、など
⑪平和共生・国際理解への対応	○ 国際理解や平和について、深く考える ための教材を掲載している。	1年P56『ベンチ』、P90『森には魔法つかいがいる』、P176『子どもの権利』、2年P106『紙の建築』、P174『夏の葬列』、3年P50『薔薇のボタン』、P98『問いかける言葉』、P302『語り継ぐもの』、など
⑫評価への手がかかり	○「学びナビ」では学習の重点を取り上げ、 指導の見通しと評価の観点を把握しやすい よう図っている。 ○各教材の 目標と振り返り において、 〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕の事項 をおさえ、さらに振り返りでは 「主体的に学習に取り組む態度」 に関わる項目も加え、評価の観点を明確にしている。 ○各学年の 「言葉の地図」のP10～13 では、各教材の指導事項を整理して示し、 学習内容や評価を見通せる ようにしている。	
⑬地域性への対応	○各領域等における教材の話題、および題材は、 地理的、地域的な偏りが無い ようにしている。また、どの地域にあっても同様の学習効果が得られるよう、国内はもとより、国際的な観点も含めて、教材選定や学習活動の設定に配慮している。 ○生徒に 身近な地域をはじめ、他の地域についても興味や関心をもつき っかけとなるよう、教材選定に配慮している。	1年P218『地域から世界へ』、2年P314『季節をうたう』、3年P118『旅への思い』、各学年後見返し④『「ふるさと」を巡る』、など
⑭多様性への対応（人権上の配慮、配慮を要する生徒への対応など）	○紙面に取り上げる写真やイラスト、文章などで、 国籍・性別などによる偏りがなく、身体的な特徴の表現にも配慮 することとあわせて、 多様な学習者の姿が見られる よう図っている。 ○二次元コードコンテンツ「まなびリンク」では、デジター図書など 読書をサポートする機器や施設 を紹介したり、点字やピクトグラムについて取り上げたりするなど、 多様な言語表現についてふれられる よう配慮している。	
⑮学力の向上への対応	○各領域の 「学びナビ」 、「 目標 」と「 振り返り 」の 対応 などで、 学習の重点化を図り、文章や多様なテキストを相互に関連させながら読み、表現する活動 を設けている。またそれら 国語の学習を支える語彙や情報を「言葉・情報」の項目などで取り立て 、基礎的な言葉の力が国語の資質・能力の向上につながるよう教材化や配列などを工夫している。 ○全国学力・学習状況調査や公立高校入試などの分析を踏まえた、 自らの力で多様なテキストを読む『学びのチャレンジ』 を各学年に設け、国語の資質・能力について自覚的に取り組める工夫をしている。	
⑯日本語指導に配慮を要する生徒への対応	○各学年の 『理解に役立つ言葉』『表現に役立つ言葉』『学習に必要な用語（索引）』 に、思考や表現のための語彙や、主な学習用をまとめ、 言葉の学習への取り組みやすさ を図っている。 ○二次元コードコンテンツ「まなびリンク」にある 動画や参考リンク資料 などの活用で、 国語の学習を補助 できるよう図っている。	
⑰教員の「働き方改革」への対応	○ 各教材の指導事項を重点化 させて「 言葉の地図 」（各学年P10）に示し、 指導の焦点化 をはかることができるよう配慮している。 ○「学びナビ」で 教材の文章や活動の前に学習内容の重点を示し 、指導者も生徒も指導の見通しをもてるよう構成されているため、 指導や評価の焦点化がしやすく、指導の負担を減らせる よう図っている。	

7 文字・表記・図版・資料

①文字・活字・書体	○活字は文字としての美しさと、点画など 文字学習を考慮した書体 を用いている。 ○字体に揺れのある漢字については、「 常用漢字表 」を規範に複数の字体を示している。 ○各学年付録「小学校六年生で学習した漢字」では、 小学校6年生配当漢字の読みと書きを確実に習得 できるよう、読み方・用例・筆順を示している。特に字形については全て硬筆による教育出版 書写教科書の筆者の字 を使用し 模範書体 を示し、 書写学習との関連 も図っている。
②ユニバーサルデザインフォント	○一部に ユニバーサルデザインに対応した書体（ユニバーサルデザインフォント） や、 デジタル機器で表示した際の視認性が向上した書体 を採用している。 ○古典教材や提出漢字などで掲出している教科書体は、教育出版小学校国語教科書で使用している 字形やユニバーサルデザインに配慮 した書体を用いている。
③表記・表現	○表記・表現については、3学年を通して 基準を統一し、適切な表記の仕方・用法が身につく よう考慮している。 ○文学作品は 原典を尊重した表記を原則 としている。特に短歌・俳句・詩教材は、原典の表記を用い、表外漢字・表外音訓や基準と異なる送り仮名などには振り仮名を付している。
④挿絵・図版・写真	○挿絵・図版・写真は、 生徒の学習意欲を高めるもの、文章の理解を助ける資料性の高いもの や、生徒の 想像を膨らませるイメージ豊かなもの、活動の手順や留意点をわかりやすく示すもの など、学習上必要なものを効果的に取り上げている。

8 造本・印刷・デザイン

①造本・印刷	○表紙は堅牢で 環境に配慮した特殊コーティング を採用。紙は 軽量ながら文字の視認性が高く裏写りのない再生紙 、印刷は植物を原料とした 植物油インク を使用している。 ○製本は、くるみ・平綴じで、 長期間の使用に耐える堅牢な方式 を採用している。
②紙面デザイン	○表紙や单元扉には 学年の発達段階に応じた物語を感じさせるイラスト を用いることで、 生徒の共感 を得られるように意図されている。 ○学年の発達段階を踏まえ、 1年生と2、3年生とでは、基本の字詰め・行数を変えるなどの工夫 をしている。イラストや図表などと文字の空きも十分とり、 識別しやすいようなレイアウト にしている。

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則り、配付を許可されているものです。